

広島東洋カープが25年ぶりに優勝しました。

僕は25年前何をしていたかしらん。

ま、頼まない社会人だったことは間違いありません。

25年よりも少し前、僕が大学を卒業してサラリーマンになって2年目、

会社の社員旅行に参加して恥ずかしい思いをしたことを覚えています。

一泊旅行に持っていく適当なカバンがないかと、何とか見つけた、押入れの奥の何故かおニューのスポーツバッグ。流行した中学生の頃買ってそのままにしていた「マディソン・スクエア・ガーデン」のカバンです。深く考えずに持っていったのですが、会社のみみんなに懐かしがられ、しかも何故かおニューで、しかもしかもそのカバンがいわゆる「パチもん」(偽物)だ!と余計な鑑定をされて、と一っつても笑われました。(\*\_\*)一番喜んだのが同期のヒラバヤシ君(仮名)とアラキ君(仮名)、そして明るい1年後輩のキタムライサコさん(仮名)。僕のおかげで彼と彼女らにはとっつても楽しい社員旅行になったようですが、僕はその時の旅行、果たしてどこに行ったのかさえ覚えていません。覚えているのはそのカバンのことだけ。(+\_+)

広島東洋カープの優勝した翌日、カープファンのヒラバヤシ君(仮名)に「おめでとう!」って電話したら、「待ってて良かったー!」と案の定、上機嫌。5~6年ぶりに声を聞きましたが、元気そうで安心しました。

ヒラバヤシ君(仮名)は25年待ちましたが、待てないものもあります。「待機児童」の問題です。

8月18日東京23区の区長代表3人が、待機児童対策として塩崎厚労相に「緊急要望」を提出しました。

それは「育児休業の期間を拡大してほしい。」という内容でした。

今、待機児童に悩む地方自治体と、離職することを防ぎたい政府の思惑が一致し、

政府は今の最大1年半を2年程度に延ばす方向で実現に動いています。

さらに背景には、保育士の雇用確保に頭を悩ませる保育所の事情もあります。

育児休業を2歳まで延長できれば、やむをえず0歳児を預けていた保護者が早い時期に子どもを預けなくて済みます。保育所としても、手のかかる0歳児にかかっていた保育士を1、2歳児などほかの担当に回せるため、結果として預けられる子ども全体の数を増やせることになるそうです。

育児休業を取得する保護者には、社会保険が免除される恩恵も延長されるでしょう。

待機児童に悩む自治体、人口減・労働力人口減に悩む政府、職員の雇用確保に悩む保育所、そして当事者である保護者、それぞれにとってメリットがある育児休業期間の延長制度。めでたしめでたし・・・。

いえいえ、それでクルッと平和解決に至るには、まだ重要なピースが必要です。

最後のピースは、育児休業を取得する保護者を抱える企業。

だって、2年もあれば、会社で扱う商品も、業務のあり方も、組織も変わるでしょう。

ともすれば、会社は「浦島太郎」状態の社員を抱えることになります。

会社としては、本人とよく面談し、またそれを記録し、育児休業取得するまでの業務の引き継ぎはもちろん、業務の棚卸と見直し、浦島太郎にしないための休業期間の連絡の方法、円滑な復帰までのプランニングがこれまで以上に大切になります。

でもでも、その前に、管理職の方にまず意識してほしいことがあります。

それは、妊娠した女性従業員から最初に報告を受けた上司のリアクション。

チームを預かる身、数字を預かる身であればこそ、体制や計画の見直し等いろいろ思うところはあるでしょう。でも、兎にも角にも、まずは「おめでとう!」と笑顔で声をかけてください。

社会は、出産、子育てを支援するという、大きな流れにあります。

「マタハラ」という言葉も出現する位、時代の潮流に無理に抗うことはできないのです。

であれば、前向きに受け止め、施策を考えるのがこれからの時代の会社と上司の役目です。

そういやサラリーマン時代、僕を散々からかった、あのイサコさん(仮名)は、もはや今は死語になりつつある「寿退社」で会社を退職しました。寂しくなったのは言うまでもありません。

今にして思えば、せめてお子さんが生まれたとき、マザーバッグにでも「マディソンバッグ」をプレゼントすれば良かったなあ。(^-)-☆ もちろん「おめでとう!」の言葉を添えて。



マジか~?



お、お、おめ、おめ、おめでとう...



言いたないんかい...

